

## 平成 29 年度第 1 回学校協議会実施報告

実施日時：平成 29 年 6 月 26 日（月）午後 5 時～6 時

実施場所：本校会議室

学校協議会委員出席者（五十音順）

長田委員、塩見委員、田中委員、安田委員

事務局出席者

金一（校長）、尚山（教頭）、田澤（事務長）、藤井（首席）、川村（首席）  
中島（教諭・生徒会主担）

### I. 次第

#### (1)校長挨拶

#### (2)協議事項（校長、教頭）

- ・学校経営計画について
- ・教科書選定の手続きについて
- ・その他

#### (3)質疑・応答

内容

<挨拶>

校長より

- ・本校は今年度 11 年目を迎える新しい学校。
- ・再編整備計画にかかり、次年度、普通科総合選択制ではなくなり、専門コース制へと変わる。ご協力をお願いします。
- ・6 月の修学旅行は震災学習など盛りだくさん、生徒は伸び伸びとしていた。

<協議事項 1>

**29 年度学校経営計画の重点目標について説明(校長)**

(委員) 専門コースについては良くわからない。特に社会文化コミュニケーションがめざす、社会系の大学・専門学校とは?

(事務局) 確かに理解しにくいところがある。大学の学部で社会系が結構できてきている。それを想定している。内容としては今までもやってきたボランティア活動を通し、コミュニケーション力をつける。これから詰めていく。

(委員) 漠然とした魅力があるが、将来どうなるか、わからない。

(事務局) 正直、今はそういうところ。

(委員) 社会文化コミュニケーションコースがめざすところは従来とは違う学部、例えば地域創造学部といったような…?

(事務局) まさにそうである。

(委員) 美術工芸情報コースは、美大をめざすのか?すごく幅がひろく、いろいろあるが。細分化してしまうのでは?それぞれの先生が分散する危惧がある。多くの教員を必要とするのでは?

(事務局) 鋭い指摘である。最終的には細分化になる。元々本校には美術・工芸それぞれ担当の教諭が別々に在籍している。生徒の人数が絞られたとしても学校全体でカバーする。美術・工芸二つでできるだけ生徒を集めたい。

(委員) 普通科専門コースを設置することで、生徒の主体性をいかに育むか注視したい。茨木東の時代から常に見て来た。先生方の努力に敬意を表する。生徒の地域での活躍を見て来た。一部の生徒だけでなく全体の生徒が、東日本との交流を通じ成長するとよい。野球部の交流の役に立ちたい。野球部はこの活動を通し、刺激を受け大いに成長した。地域としてお手伝いできたらと思っている。

<協議事項 2>

**教科用図書を選定方法について(教頭)**

(事務局) 高校での教科書選定方法について説明。

(委員からの意見、特に無し)

<協議事項3>

その他

(事務局) 今後の動きについて、再編整備については、普通科総合選択制が最終年度となる。また、高校入試制度がわずかに変わる。インフルエンザの扱いが、今までの別室受験から、文科省の通知により、別日程の対応となる。詳細はこれから。

(委員) キャリア教育のことが今までは入っていたが…

(事務局) 一部の内容は残っている。ただ、再編整備に伴う機構改革があるので、減らしていったらいい。

(委員) 専門コース制については、どのようなところまで決まっているか?

(事務局) パンフレットの作成中。中学校からの質問に如何に答えるか、説明できるように…

(委員) 細かいことはこれから決まっていくのだろう。人の配置も含め。

(事務局) 人が減るのは間違いない。12期生の2年生からコース制が始まる。コース制が決定したとはいえ、具体化、あるいは中身はこれから。

(委員) コース制がいいものになればよいと思う。前もそうだったが、今も成長途上期にあるので。今後はモデルの構築が大事となる。言葉ではなく視覚に働きかけないと抽象的になる。先輩がいないので。

キャリア教育については、学問ではない。キャリア学と位置づけるのは無茶。キャリア教育は人の生き方・生き様から出てくるもの。教える人はなかなかいない。就職の面接の仕方・履歴書の書き方ではなく、キャリア教育とは何か、追求していくこと。できるだけ早い時期に。難しいのは確かであるが、どの大学に行きたいか、学問ではなく、生き方とか大事なところを。制度が変わり、コース並列で忙しくなるが。